



## 行政視察等報告書

安来市議会議長 様

報告者 会派 公明党  
議員 佐々木 厚子

この度、行政視察を行いましたので報告します。

### 記

期日 平成29年1月16日 ～ 平成29年1月17日

行先 福岡県春日市  
佐賀県伊万里市

日程 別紙のとおり

参加者 佐々木厚子

同行者 上廻芳和、金山満輝、遠藤孝、井上峯雄、石倉刻夷、作野幸憲  
合計6人

視察内容 別紙のとおり

## 行政視察報告

(会派 公明党)

### <視察目的>

#### ・福岡県春日市

全国でコミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）が広がりを見せる中、春日市は平成 17 年度からこのしくみを導入され、実績をあげておられます。安来市でもこのしくみを参考に、今まで以上に学校・家庭・地域が連携したまちづくりができないかと考えたため。

#### ・佐賀県伊万里市

伊万里市民図書館は、図書館ボランティアを全国に先駆けて進めるなど、様々な先進的活動をしておられる。安来市でも、この先進的な活動を少しでも取り入れ、図書館の利活用に役立てればと考えたため。

### <視察概要一覧>

視察月日	視察先	視察施設	視察内容
平成 29 年 1 月 16 日 (月)	福岡県春日市	春日市役所	コミュニティ・スクールについて
平成 29 年 1 月 17 日 (火)	佐賀県伊万里市	伊万里市民図書館	図書館ボランティア －図書館フレンズいまりーについて

### <視察概要報告>

#### 1. 福岡県春日市

- 対応者： 春日市教育委員会 指導主幹 廣 修治様  
                  "                  教育部教務課課長補佐 生田 久仁子様  
                  "                  教育部教務課主任 西 祐樹様  
春日市議会事務局 議事課 小嶋 健朗様

- 場 所： 春日市役所

- 概 要：

#### 「コミュニティ・スクールについて」

春日市の小中学校では、平成 17 年度から市内 2 小学校と 1 中学校がコミュニティ・スクールに移行したのを皮切りに、順次導入が進み、平成 22 年 4 月からは市内すべての小中学校（12 小学校 6 中学校）がコミュニティ・スクールになりました。

春日市のコミュニティ・スクールの特徴は、大きく 2 つあります。

ひとつは、「協働・責任分担」方式です。校長のリーダーシップの下、学校運営協議会、地域が学校を支える応援団となり、学校、家庭、地域がそれぞれの役割を担い、協働しながら相互に責任を果たす「協働・責任分担」方式によるコミュニティ・スクールを展開しておられます。

もう一つは推進部となる「実働組織」を設置しておられることです。この組織は、学校運営協議会で話し合い決定したことを実践するため、学校運営協議会委員、教職員代表、保護者代表、地域代表、教育委員会職員などで構成されています。

このような組織体制で、「社会総がかりでの教育の実現」を目標に、学校、家庭、地域の三者が主体性と役割を発揮しながら各種活動を展開しておられ、このことを通じ三者が双方向の関係づくりに努めておられます。

その結果、「学問のすすめ運動」などによる家庭学習の習慣化によって、基礎・基本学力が身についてきていること。また学校・家庭・地域の三者連携により、「共育（共に育てる）」活動が充実し、学校・家庭・地域の教育力向上につながっているなど、多くの成果を上げておられました。

#### 〈考察〉

○めまぐるしい社会変化の中、子どもにかかわる事を学校だけで全てカバーするのが不可能な時代になってきました。生きづらい時代、育ちづらい時代の中でコミュニティースクールが学校、家庭、地域の三者による教育基盤を形成し、協働のまちづくりを行う。とても素晴らしい取り組みをされていると思いました。

春日市の人口、面積などまちづくりを行うのにとてもいい状況にあると思います。また福岡県で一番住みやすいまちともいわれ、九州、沖縄では那覇市に次ぐ2番目に人口密度が高いまちで過密であること。自治会を中心とした地域活動も活発とのこと。このようないろいろな要素が絡み合い、コミュニティースクールの理念でもある子どもが育つ地域基盤を作る事ができるのだと思います。

とても参考になりました。

## 2. 佐賀県伊万里市

- 対応者： 伊万里市議会 議長 盛 泰子様  
伊万里市民図書館 館長 杉原 あけみ様
- 場 所：伊万里市民図書館
- 概 要：

「図書館ボランティア図書館フレンズいまりーについて」

今回視察した伊万里市民図書館は平成7年7月7日に市民運動とともに生まれた図書館です。当時「体育施設は整備されているが、文化施設はいまひとつ。まともな図書館がないところでは子育てはできない」との思いで「図書館づくりをすすめる会」が立ち上げ、その思いが実を結び、設計段階から意見交換をされ、市民のための図書館として、様々な活動を展開しておられます。

現在職員体制は18名（司書12名）で、蔵書点数36万点です。この市民図書館の特徴のひとつが、全国に先駆けすすめられた図書館ボランティア「図書館フレンズいまり」です。図書館が生まれる前から、深く関わっておられた「すすめる会」のメンバーが中心になられ、開館後も「協力と提言」を合言葉に、図書館サポーターとしてできる限りの協力をし、そしてしっかりと意見を言うということで図書館を支えておられます。

活動内容は、①講演会などの企画・実施②図書館の支援、及び協議、提言③図書館ボランティア活動の支援④広報・PR活動⑤他の図書館友の会との連携などです。平成28年5月現在の会員数は392名、年会費は1000円で、伊万里市民図書館を愛する人であれば市外の方でも入会できるそうです。また会員の中には「活動に参加できないけど、会費で応援するね」という方も多いそうです。年間多くのイベントや様々な活動（読み聞かせや草刈り、古本の販売など）はもちろん、赤ちゃんのブックスタート事業や自動車図書館「ぶっくん」の巡回、「家読（うちどく）」の推進など先進的な取り組みも展開しておられます。

### 〈考察〉

○伊万里図書館の建設時の目標が「伊万里をつくり 市民とともにそだつ 市民の図書館」です。図書館から伊万里のすべてが始まっていると言っても過言でないくらい図書館に対する市民の皆さまの意識がとても高いと感じました。ブックスタート事業では図書館で3か月健診を行う際にただ本を渡すのではなく、ボランティアが本を読み、育児に対して不安があるお母さんにも本はこう読んでいくんだと教えてあげられる機会にもなっているとのこと。とてもいい取り組みだと思いました。安来も初めて見たらいいと思いました。提案したいと思います。

今回、図書館支援市民活動団体「図書館フレンズいまり」についてお話を伺いました。この団体の目的は、「図書館の活動に協力し、提言することにより伊万里市民図書館が市民のための図書館であり続けるよう、守り育てること」です。現在392名の会員がいろいろな委員会を中心に活動されています。活動費は市からの援助は受けず、自分たちの年会費と、古本を売ったり、手作りグッズの販売をして活動費にされています。

会への入会資格が「伊万里図書館を愛する人」とのこと、これだけでも、本当に本が好きで図書館が好きで、人のお世話も好きな人たちが守ってこられた大事な図書館であるとの思いが伝わります。

とても斬新な取り組みはとても参考になりました。

以上